

まちの話題

120匹の錦鯉を品評

第26回北兵庫錦鯉合同品評会（全日本愛鱗会兵庫県支部北部分会ほか主催）が11月4日、大数の但馬家畜市場で開催されま

した。

この品評会は、錦鯉の美しさを競うとともに、飼育技術の向上を図るために開催されているもので、120匹の錦鯉が出品され、寸法や品種に分けて色合いや模様バランスなどが厳正に審査されました。

総合優勝の部の結果は次のとおりです。（敬称略、氏名と魚種）
 ▼全体総合優勝Ⅱ沖田守、紅白
 ▼壮魚総合優勝Ⅱ沖田守、大正三色
 ▼成魚総合優勝Ⅱ中塚修二郎、大正三色
 ▼幼魚総合優勝Ⅱ藤和信夫、紅白

出品された錦鯉を厳正に審査

農民の暮らしを細やかに再現

農民人形作家の渡辺うめさんの作品展「あぜみちの詩」が、11月3日から11日までとが山自然文化園で開催されました。うめさんは、明治40年に青森市で生まれ、昭和19年に夫の故郷である八鹿町宿南に移住しました。その後、但馬地域の農村風景を見つめ続け、農村に生きる人の暮らしぶりを細やかに再現した数多くの作品を制作されました。

今回は、養父市所蔵の作品を中心に37点の作品が展示され、期間中には約300人が来場。豊岡市出石町から訪れた出石町社会福祉協議会「げんき倶楽部」の皆さんは、「昔の思い出がよみがえり、とても懐かしい気持ちになりました」と話しました。



懐かしそうに農民人形を見つめる来場者

子ども歌舞伎が観客魅了

11月24日、第5回せきのみや子ども歌舞伎記念公演（葛畑農村歌舞伎公演実行委員会など主催）が関宮公民館ノビアホールで行われました。

公演は見事な口上で幕が開き、本公演に向けて約半年間、稽古を重ねてきた市内の小中学生15人が、葛畑三番叟のほか、日本舞踊、男女の恋愛を描いた歌舞伎「恋飛脚大和往来」などを上演しました。

歌舞伎独特の演技とせりふを決める場面では、会場に集まった約400人から歓声が上がりとともに、数多くのおひねりが投げ込まれました。

子ども歌舞伎は、翌25日に八鹿文化会館ホールで行われた養父市伝統芸能祭でも上演され、市内外の伝統芸能団体の演目と合わせて会場をわがしました。



息の合った葛畑三番叟を熱演する子ども達